
平成27年度 決算説明会資料

平成28年5月9日

日新製鋼株式会社

当社の状況



業績の状況

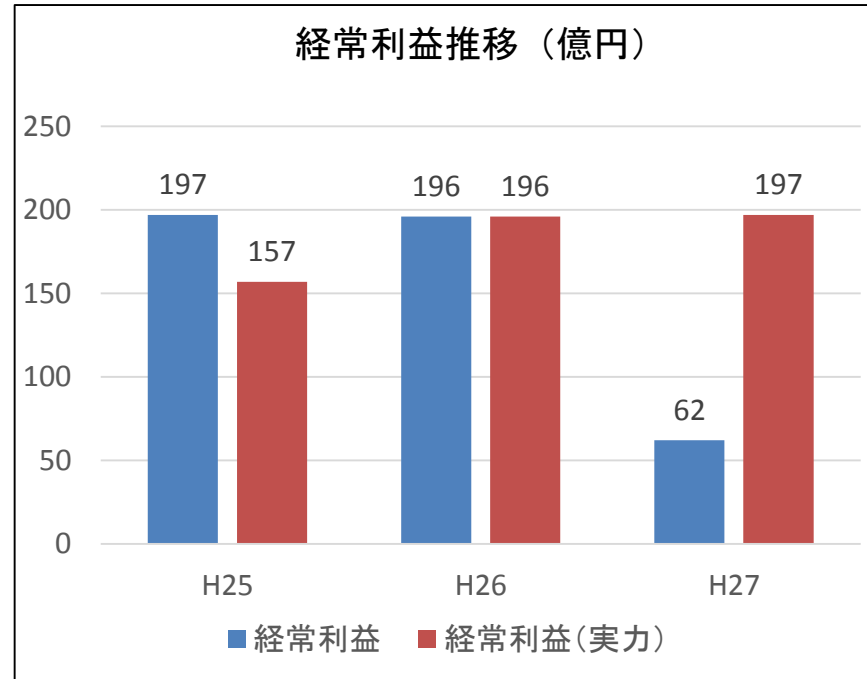
経営環境

- ✓ 国内では、需要家の持ち直し感などが見られるものの、鋼材在庫の水準は依然として高く、需要見合いの慎重な生産を継続
- ✓ 海外では、中国の経済減速や過剰生産等に起因する厳しい需給環境が継続

当期の業績

- ✓ 原料価格の急激な下落による在庫評価損の拡大等により決算ベースの経常利益は62億円。ただし実力ベースは197億円と着実に伸長

経常利益推移（億円）



(億円)

	H25年度			H26年度			H27年度		
	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計
販売数量(万t)	176	193	369	192	189	381	175	183	358
売上高	2,703	3,061	5,764	3,108	3,067	6,175	2,767	2,703	5,470
経常利益	128	69	197	83	113	196	54	8	62
在庫評価	5	35	40	10	▲ 10	0	▲ 50	▲ 85	▲ 135
経常利益(実力)	123	34	157	73	123	196	104	93	197

24号中計の進捗状況

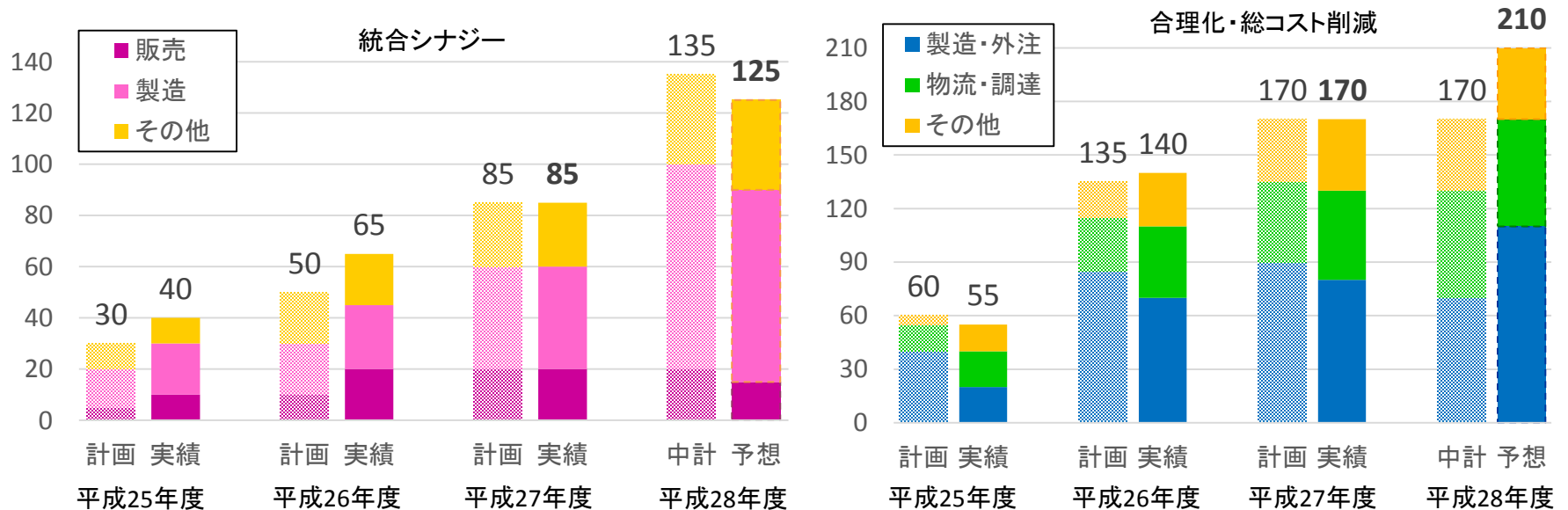
統合シナジーと合理化・総コスト削減プロジェクトの進展

◇ 統合シナジー

- ・ 周南新製鋼立ち上げ、衣浦製鋼休止等を計画通り実施し、統合シナジー最大化に注力
- ・ その結果、平成27年度においては期初計画通り、累計85億円の統合シナジーを達成
- ・ 平成28年度は累計125億円の見通し

◇ 合理化・総コスト削減プロジェクト

- ・ 厳しい経営環境の中、製造・外注・物流・調達等、全社一丸となって合理化・総コスト削減活動を推進
- ・ その結果、平成27年度においては期初計画通り、累計170億円の合理化・総コスト削減を達成
- ・ 平成28年度は累計210億円の見通し



24号中計の進捗状況

ステンレス製鋼統合

- ・ 平成27年11月28日 衣浦製鋼休止
- ・ 平成27年12月11日 衣浦製鋼工場閉所式

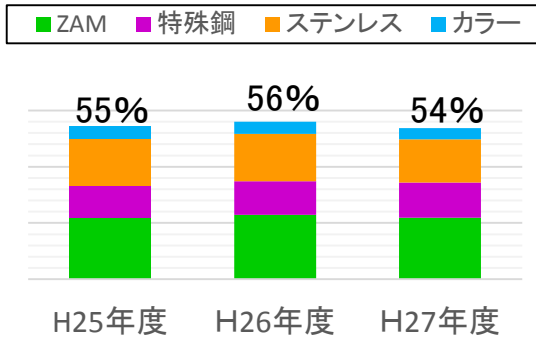
平成27年11月28日 衣浦製鋼43年間の歴史に幕



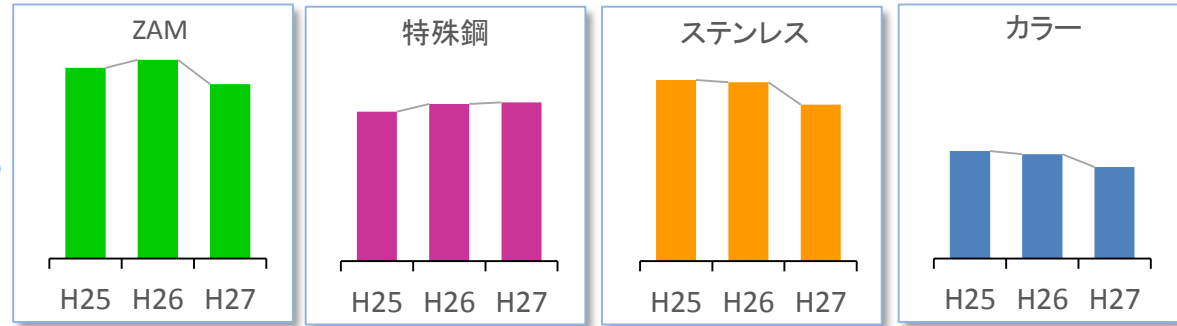
製鋼の魂は生き続け、衣浦で、また周南で進化し続ける

24号中計の進捗状況

コア製品比率



各コア製品の推移(数量ベース)



グループ体での川下戦略の展開

◇ 新鉄鋼建材会社『日新製鋼建材株式会社』発足（平成28年4月1日）



塗装・建材事業



「人、物、金、時間、情報」の五要素を一元化

統合
独立

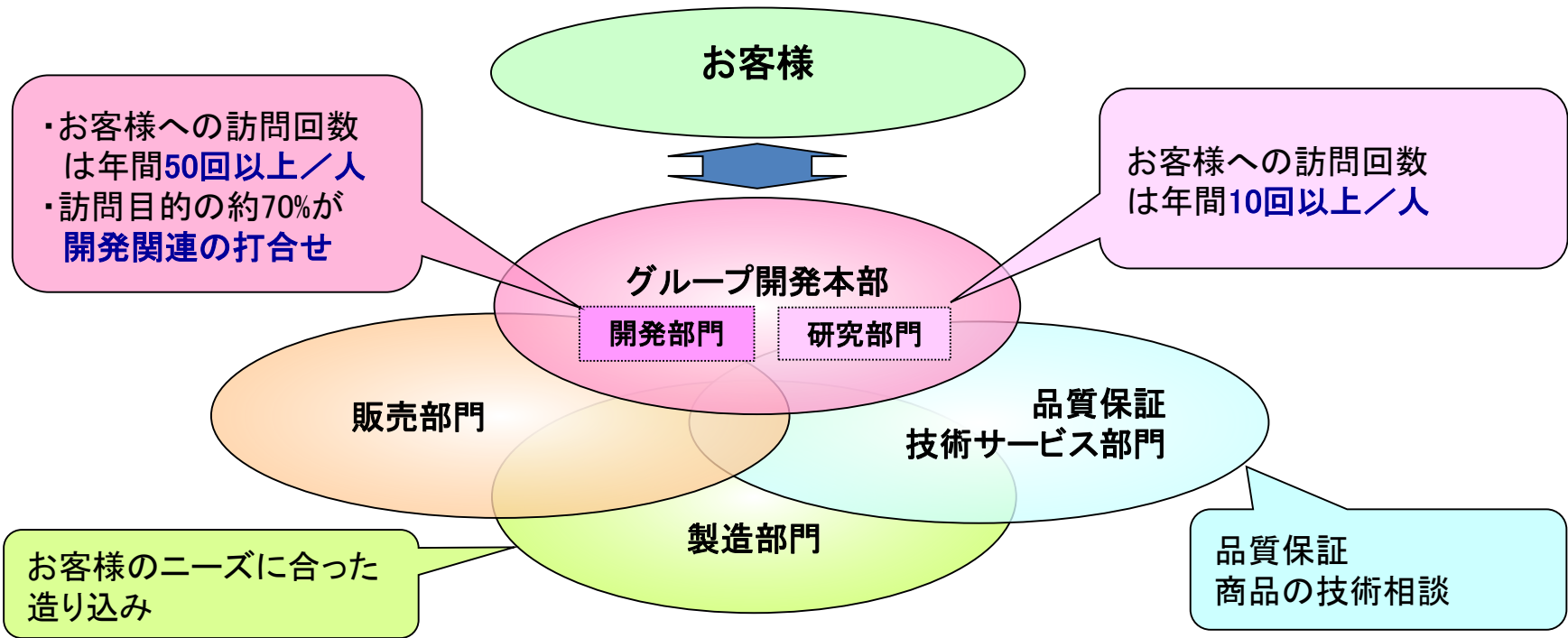
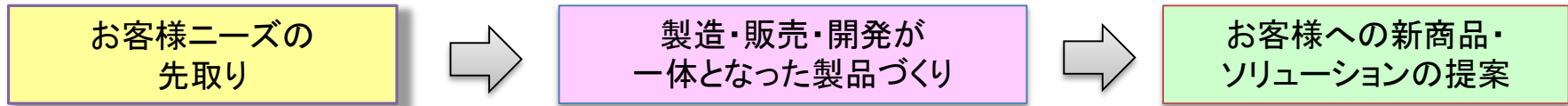
「日本の建物にイノベーションを」



24号中計の進捗状況

新規事業の創出

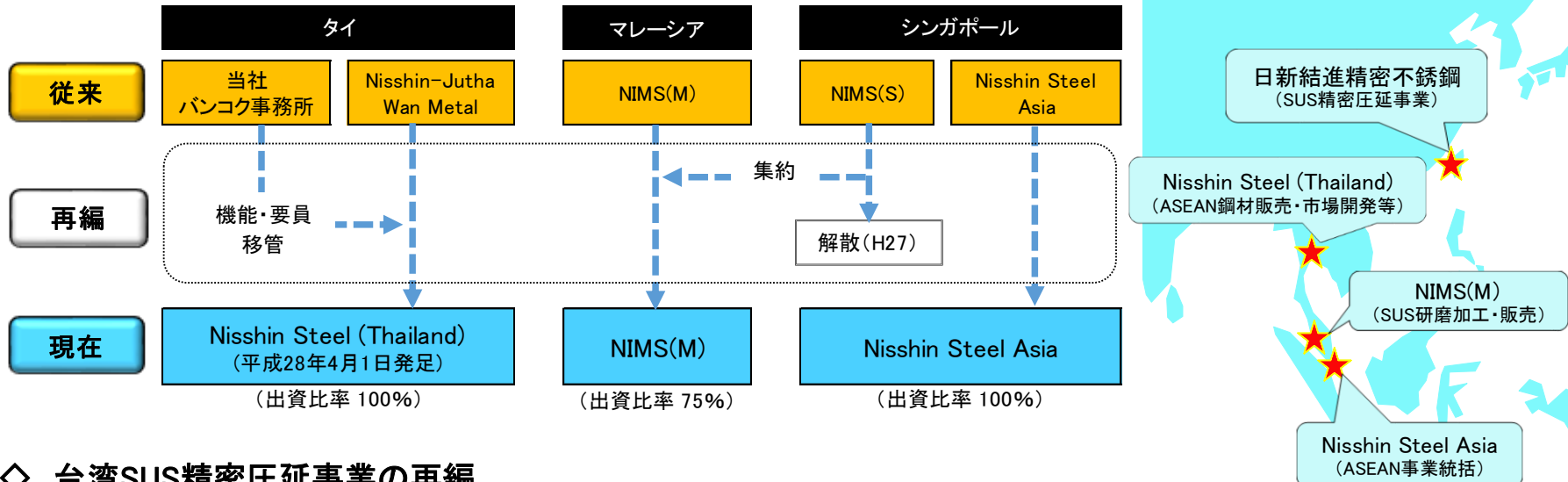
「お客様の夢と理想の実現」のため、全社一体(クロスファンクショナル組織)となった開発活動を推進



24号中計の進捗状況

グローバル事業体制の構築

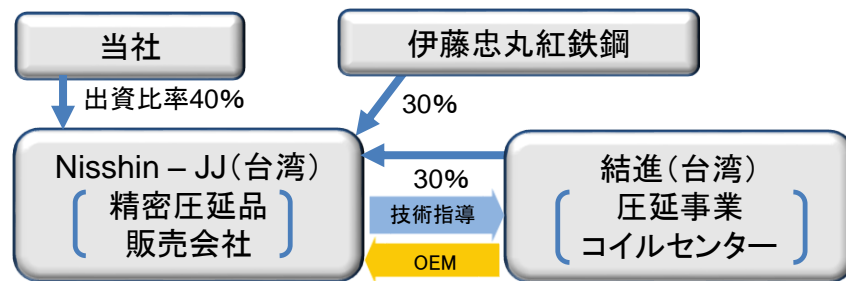
◇ ASEAN拠点再編



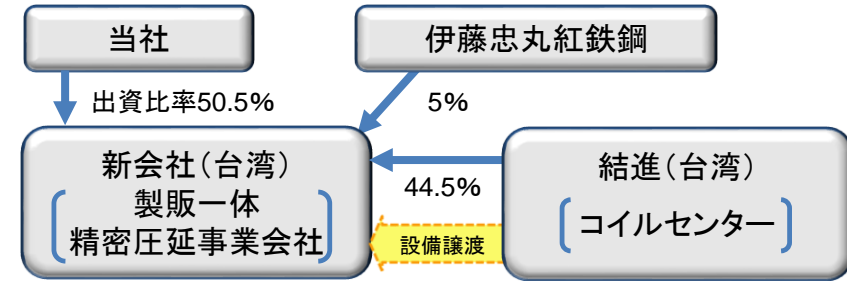
◇ 台湾SUS精密圧延事業の再編

・ 新合併事業会社『日新結進精密不銹鋼股份有限公司』設立の3社合意

[現在]



[再編後(※)]



※新会社は本年9月に営業生産開始予定。Nisshin-JJは将来、発展的解散

配当および平成28年度業績予想

配当

◇ H27年度年間配当金(予定)

- ・ 一株当たり40円(※中間配当金15円含む)

	H25年度	H26年度	H27年度
1株当たり配当額(円)	15.0	40.0	40.0

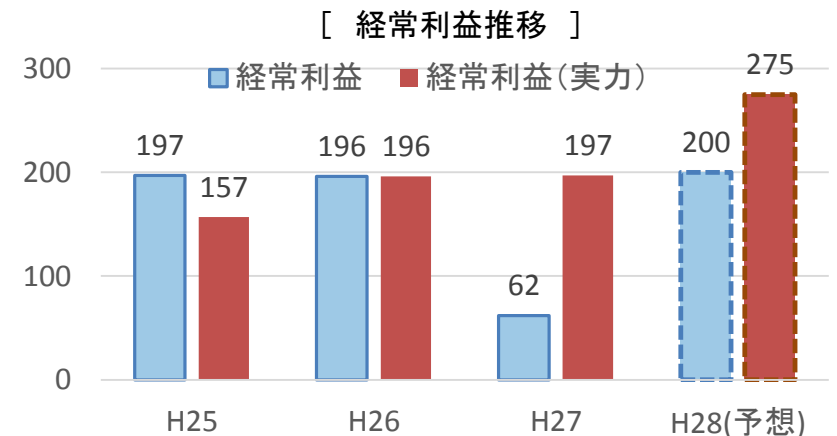
【利益配分に関する基本方針】

連結業績に応じた適切な剰余金の配当を実施していくことを基本に、企業価値向上に向けた今後の事業展開に必要な内部留保の確保および今後の業績見通しを踏まえつつ、安定的な株主還元を実施

平成28年度業績予想

	H28年度 業績予想	中計 H28年度	
		メイン	リスク
売上高	5,210	6,350	6,050
経常利益	200	380	220
在庫評価	▲ 75	-	-
経常利益(実力)	275	380	220

(億円)



事業構造改革・新日鐵住金(株)による当社子会社化等の検討開始について

事業構造改革

◇ 2016年2月1日、以下の方針を決定

1. コア製品の再定義と戦略強化

高機能品であるコア製品の
生産販売へ完全シフト

2. コア製品戦略強化に向けた投資方針

2019年度末までに呉第1高炉を改修、第2
高炉を休止(※)することで投資余力を創出

3. 呉製鉄所の高付加価値化

コア製品戦略の“中心拠点”として
品質向上・特殊鋼事業強化投資等を推進

※ 呉第2高炉休止により不足する鉄源については、新日鐵住金(株)に鋼片供給を要請

当社グループの得意分野における事業伸長を通じて、
今後も “お客様や社会、その他ステークホルダーに必要とされる企業” としてあり続ける

新日鐵住金(株)による当社子会社化等の検討開始について

◇ 2016年2月1日、本検討を開始する旨の覚書を締結

◇ 今後の予定

- ・ 2016年5月中旬目途：正式契約の締結および適時開示
- ・ 2017年3月目途：新日鐵住金(株)による当社の子会社化
※国内外の競争当局による承認、その他の必要な手続を経たうえで実施
- ・ 2019年度内：新日鐵住金(株)による当社への鋼片供給開始

平成27年度 決算の概要



平成27年度決算

概況

- ✓ 国内需要が盛り上がりを欠くなか、輸出環境の悪化もあり、国内鋼材在庫は高水準で推移。在庫適正化を推進すべく実需見合いの生産・販売を徹底し、粗鋼生産量は379万トﾝ（対前期▲19万トﾝ）、販売数量は358万トﾝ（同▲23万トﾝ）
- ✓ 当期連結業績については、販売数量減に加え、原料価格下落に伴う在庫評価損の発生などもあり、売上高は5,470億円（対前期▲705億円）、経常利益は62億円（同▲134億円）となったものの、在庫評価除く実力ベース経常利益では197億円（同+1億円）と前期並みの収益を確保
- ✓ ステンレスは在庫評価損の発生、海外グループ会社業績の苦戦もあり、経常利益は▲110億円（対前期▲145億円）、在庫評価除く実力ベース▲20億円（同▲30億円）となった
- ✓ また、原料安を背景とする海外投資会社の株式評価損の計上等、一過性要因もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は▲66億円（対前期▲235億円）となった

平成27年度決算

(億円)

	No	H27年度		H26年度
		(実績) a	(前回予想) b	(実績) c
売上高	1	5,470	5,490	6,175
営業利益	2	100	110	210
経常利益	普通鋼・特殊鋼	172	170	161
	ステンレス	▲ 110	▲ 105	35
	計	62	65	196
親会社株主に帰属する当期純利益	6	▲ 66	10	169

差異	
① a-b	② a-c
▲ 20	▲ 705
▲ 10	▲ 110
2	11
▲ 5	▲ 145
▲ 3	▲ 134
▲ 76	▲ 235

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 45	▲ 60	▲ 25
	ステンレス	8	▲ 90	▲ 80	25
	計	9	▲ 135	▲ 140	0

15	▲ 20
▲ 10	▲ 115
5	▲ 135

<実カベース>

経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	217	230	186
	ステンレス	11	▲ 20	▲ 25	10
	計	12	197	205	196

▲ 13	31
5	▲ 30
▲ 8	1

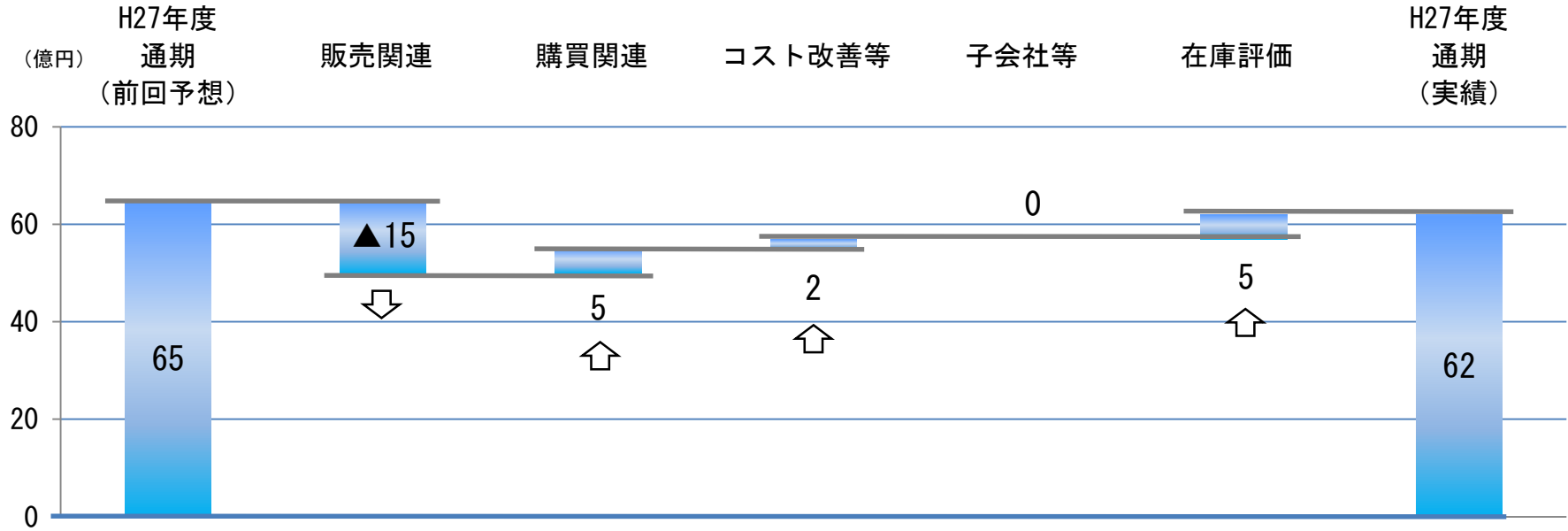
平成27年度諸元

		No	H27年度		H26年度
			(実績) a	(前回予想) b	(実績) c
粗鋼生産量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	1	314	319	327
	ステンレス	2	65	66	71
	計	3	379	385	398
販売数量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	4	306	304	321
	ステンレス	5	52	53	60
	計	6	358	357	381
鋼材平均単価 (千円/トン)		7	117	118	127
輸出比率 (金額ベース, %)		8	15	15	17
輸出為替レート (円/ドル)		9	120	121	109

差異	
① a-b	② a-c
▲ 5	▲ 13
▲ 1	▲ 6
▲ 6	▲ 19
2	▲ 15
▲ 1	▲ 8
1	▲ 23
▲ 1	▲ 10
0	▲ 2
▲ 1	11

経常利益差異内訳

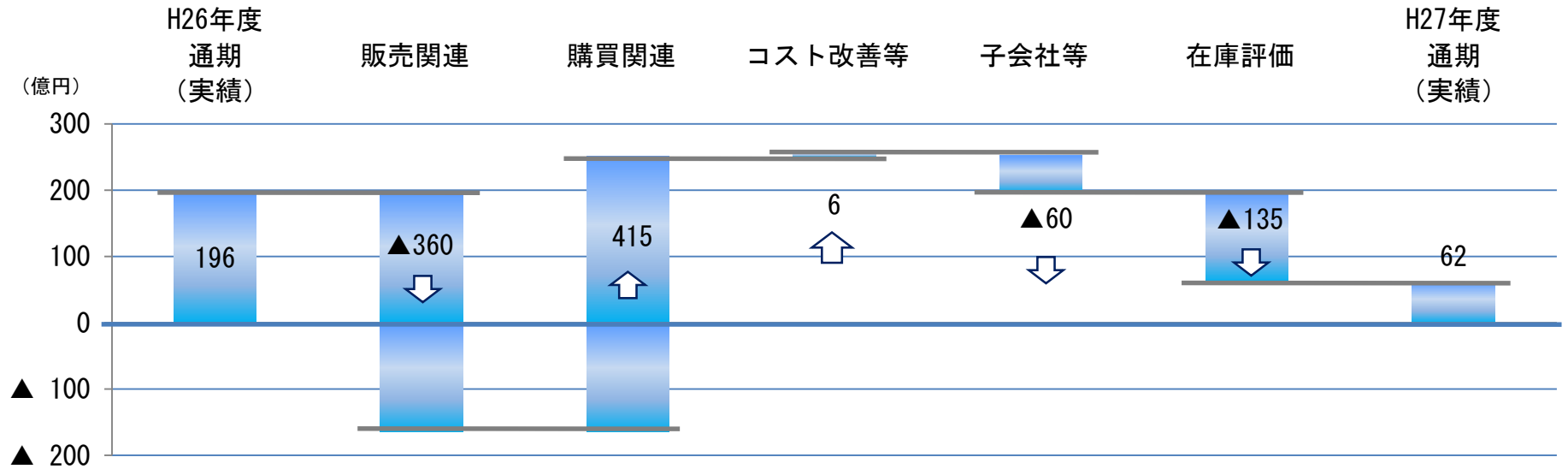
H27年度通期(前回予想):H27年度通期(実績)



H27年度通期(前回予想)		65	変動要因	(億円)	(内ステンル)
変動要因	販売関連	▲15	価格差▲10、数量構成差▲5	▲5	▲5
	購買関連	5	ニッケル原料 5	5	5
	コスト改善等	2		5	5
	子会社等	0		0	0
	在庫評価	5	▲140→▲135 (内ステンル ▲80→▲90)	▲10	▲10
計		▲3		▲5	▲5
H27年度通期(実績)		62		▲110	▲110

経常利益差異内訳

H26年度通期(実績):H27年度通期(実績)



H26年度通期(実績)		196	変動要因	35
変動要因	販売関連	▲360	価格差▲340、数量構成差▲80、輸出為替差 60	▲140
	購買関連	415	鉄鉱石 250、石炭 45、油類 105、ニッケル原料 190、 輸入為替差 ▲225	160
	コスト改善等	6	合理化等	5
	子会社等	▲60	海外子会社等▲60	▲55
	在庫評価	▲135	0→▲135 (内ステンレス 25→▲90)	▲115
計		▲134		▲145
H27年度通期(実績)		62		▲110

貸借対照表 (H28年3月末)

(億円)

		対H27/3末		主な内訳
現預金	314	51		
売上債権	775	▲ 14		売上減少
たな卸資産	1,247	▲ 194		原料安等
その他流動資産	256	▲ 52		
有形・無形固定資産	2,788	10		
投資等	1,699	▲ 424		退職給付資産、株式含み益の減少 他
資産合計	7,081	▲ 624		
有利子負債	2,795	▲ 103		
その他の負債	2,106	19		
負債合計	4,901	▲ 84		
資本金・資本剰余金	1,063	▲ 147		利益剰余金へ振替▲123、配当▲43
利益剰余金	782	40		資本剰余金から振替 123、親会社株主純利益▲66
自己株式	▲ 5	▲ 0		
その他の包括利益累計額	276	▲ 405		有価証券評価差額金▲90、退職給付調整▲286
非支配株主持分	62	▲ 27		
純資産合計	2,179	▲ 540		
負債・純資産合計	7,081	▲ 624		

キャッシュ・フロー

(億円)

	H27年度	主な内容	H26年度
営業活動による キャッシュ・フロー	505	税引前純利益 ▲ 14	393
		減価償却費 265	
		売上債権減少 10	
		たな卸資産減少 191	
		仕入債務減少 ▲ 6	
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 282	有形固定資産取得 ▲ 248	▲ 293
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 165	有利子負債減少 ▲ 103	▲ 260
		配当金支払 ▲ 60	
現金及び現金 同等物の期末残高	313		261

平成28年度業績予想

概況

- ✓ 国内需要は4-6月を底に、五輪関連の建築・インフラ整備需要などが徐々に動き出す後半にかけ回復が期待される
- ✓ 収益はシナジー最大化、合理化・総コスト削減活動に取り組むとともに、在庫評価損の縮小により、経常利益200億円（対前期+138億円）、在庫評価除く実力ベース経常利益275億円（同+78億円）を見込む
- ✓ ステンレスは周南-衣浦の最適生産体制確立、周南新製鋼の強みを最大限に活用した商品開発・販売活動の推進などにより、マーケット環境に左右されないビジネスモデル構築に取り組み、在庫評価除く実力ベース経常利益10億円（対前期+30億円）を目指す

平成28年度業績予想

(億円)

	No	H28年度(予想)			H27年度 (実績)	差異 ① c-d	
		上期 a	下期 b	c	d		
売上高	1	2,540	2,670	5,210	5,470	▲ 260	
営業利益	2	90	165	255	100	155	
経常利益	普通鋼・特殊鋼	3	75	140	215	172	43
	ステンレス	4	▲ 25	10	▲ 15	▲ 110	95
	計	5	50	150	200	62	138
親会社株主に帰属する 当期純利益	6	30	115	145	▲ 66	211	

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 35	▲ 15	▲ 50	▲ 45	▲ 5
	ステンレス	8	▲ 20	▲ 5	▲ 25	▲ 90	65
	計	9	▲ 55	▲ 20	▲ 75	▲ 135	60

<実カベース>

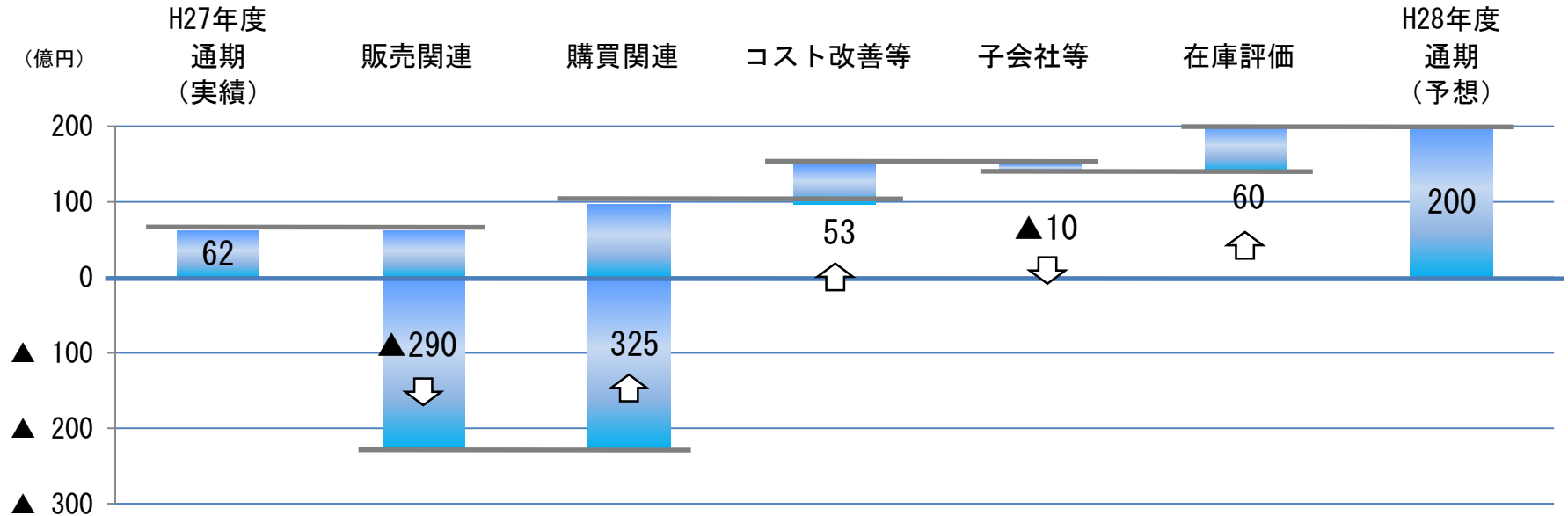
経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	110	155	265	217	48
	ステンレス	11	▲ 5	15	10	▲ 20	30
	計	12	105	170	275	197	78

平成28年度業績予想諸元

		No	H28年度(予想)		c	H27年度	差異 ① c-d
			上期 a	下期 b		(実績) d	
粗鋼生産量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	1	163	161	324	314	10
	ステンレス	2	35	33	68	65	3
	計	3	198	194	392	379	13
販売数量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	4	150	157	307	306	1
	ステンレス	5	27	30	57	52	5
	計	6	177	187	364	358	6
鋼材平均単価 (千円/トン)		7	110	111	110	117	▲ 7
輸出比率 (金額ベース, %)		8	15	15	15	15	0
輸出為替レート (円/ドル)		9	110	110	110	120	▲ 10

経常利益差異内訳

H27年度通期(実績):H28年度通期(予想)



H27年度通期 (実績)		62	変動要因	▲ 110
変動要因	販売関連	▲ 290	価格差▲285、数量構成差 45、輸出為替差▲50	▲ 120
	購買関連	325	鉄鉱石 65、石炭 15、油類 30、ニッケル原料 50、 輸入為替差 110	130
	コスト改善等	53	合理化等	25
	子会社等	▲ 10	子会社等▲10	▲ 5
	在庫評価	60	▲135→▲75 (内ステンレス▲90→▲25)	65
計		138		95
H28年度通期 (予想)		200		▲ 15

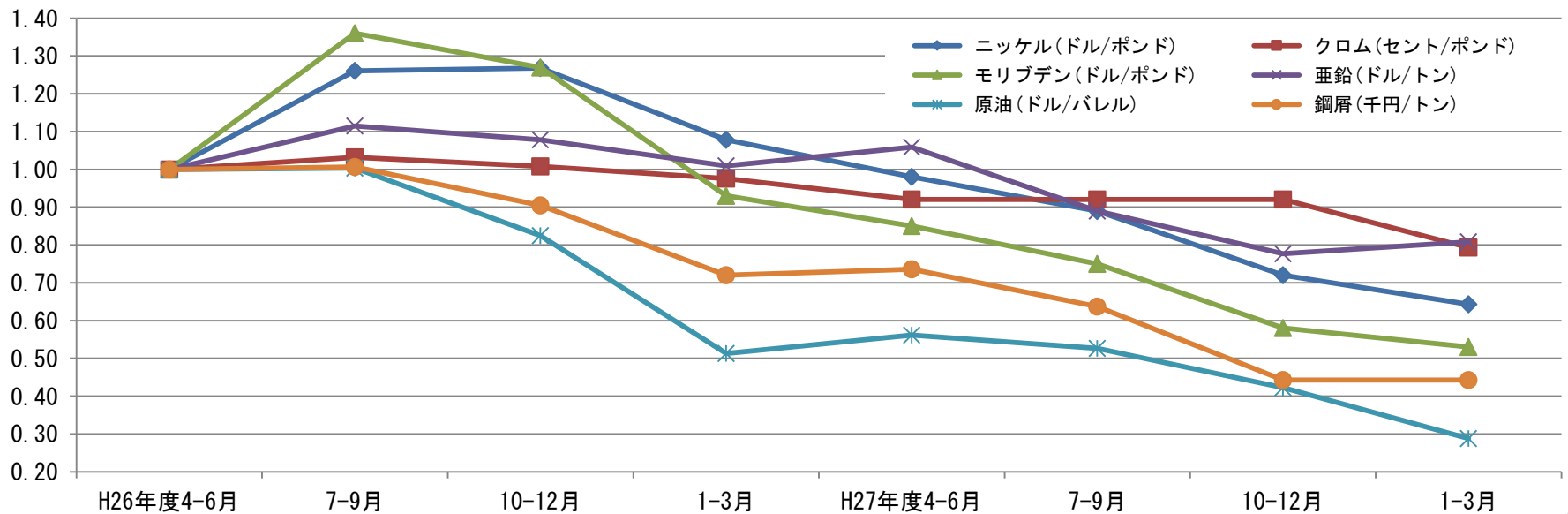
(ご参考)
主要データ



購買市況(適用ベース)

	H26年度							H27年度						
	上期			下期			平均	上期			下期			平均
	4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均		4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均	
ニッケル(ドル/ポンド)	6.64	8.37	7.51	8.42	7.16	7.79	7.65	6.51	5.91	6.21	4.78	4.27	4.53	5.37
クロム(セント/ポンド)	126.0	130.0	128.0	127.0	123.0	125.0	126.5	116.0	116.0	116.0	116.0	100.0	108.0	112.0
モリブデン(ドル/ポンド)	10.0	13.6	11.8	12.7	9.3	11.0	11.4	8.5	7.5	8.0	5.8	5.3	5.6	6.8
亜鉛(ドル/トン)	2,073	2,311	2,192	2,235	2,092	2,164	2,178	2,195	1,844	2,020	1,611	1,676	1,644	1,832
原油(ドル/バレル)	104.9	105.3	105.1	86.5	53.8	70.1	87.6	58.9	55.2	57.1	44.3	30.2	37.3	47.2
鋼屑(千円/トン)	31.4	31.6	31.5	28.4	22.6	25.5	28.5	23.1	20.0	21.6	13.9	13.9	13.9	17.7

購買市況の推移 (H26年度4-6月を1.00)



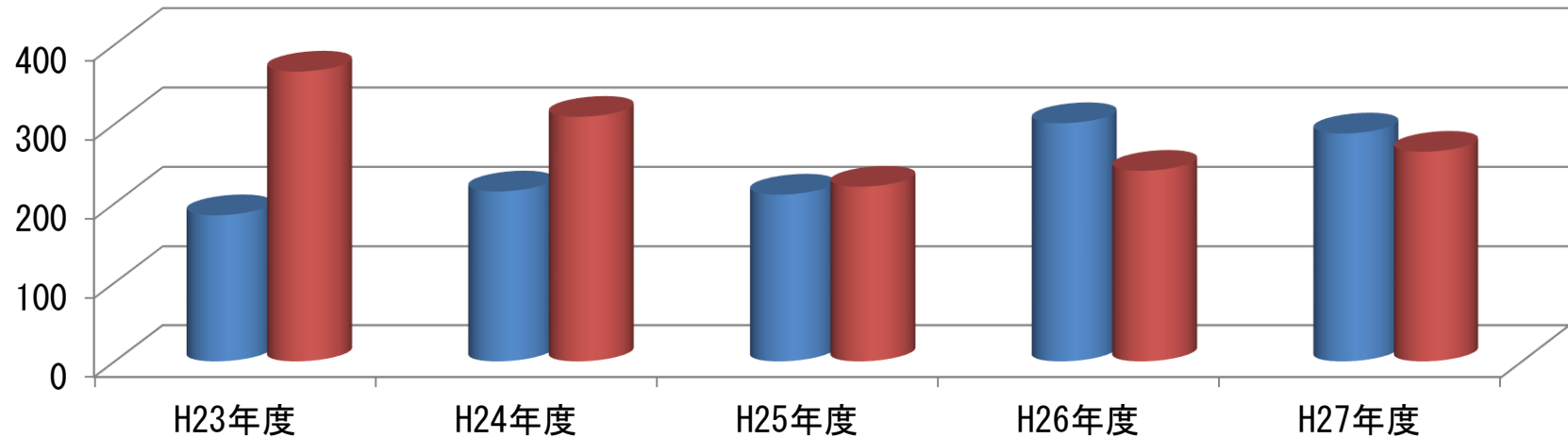
設備投資・減価償却費

※H23年度は旧日新製鋼連結

(億円)

■ 設備投資（有形のみ／検収ベース）

■ 減価償却費

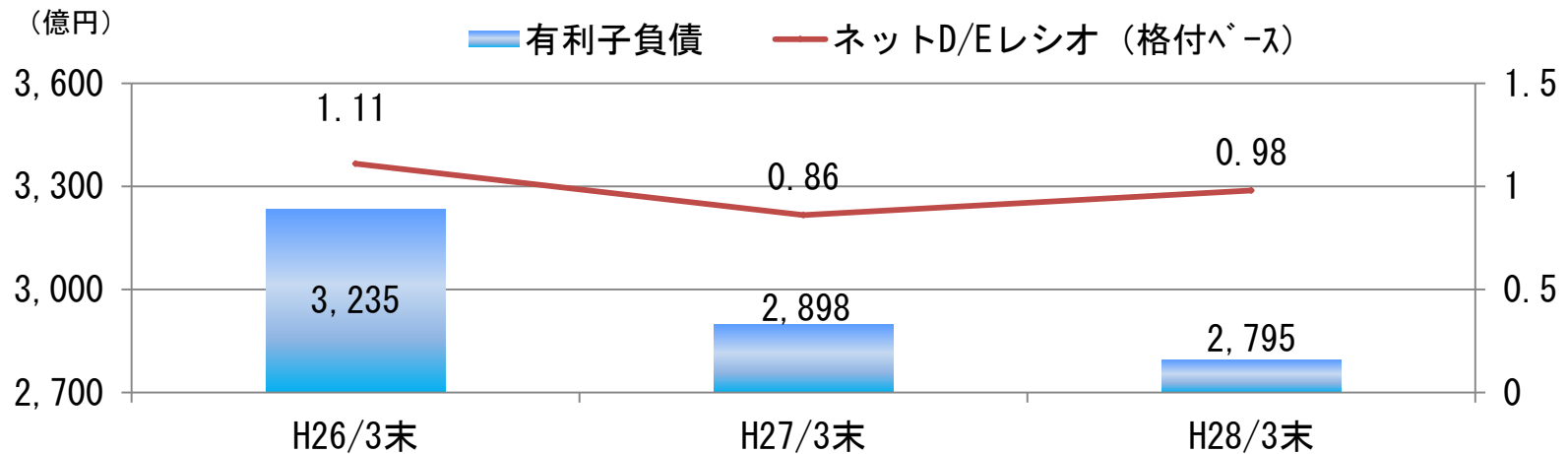


(億円)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
設備投資	185	215	211	301	288
減価償却費	366	309	221	241	265

※設備投資額は有形のみ／検収ベース

有利子負債・ネットD/Eレシオ（格付けベース）



	H26/3末	H27/3末	H28/3末
手許預金 (億円)	408	263	314
有利子負債 (億円)	3,235	2,898	2,795
ネットD/Eレシオ	1.36	1.00	1.17
〃 (格付けベース) ※	1.11	0.86	0.98

※ 日本格付研究所の格付評価上、資本性が認められるハイブリッド証券/ハイブリッドローンについて、元本の50%を資本とみなした場合のネットD/Eレシオ
 (H26/3末は500億円の50%、H27/3末およびH28/3末は400億円の50%を、それぞれ資本に算入)